



最先端外科治療の選択

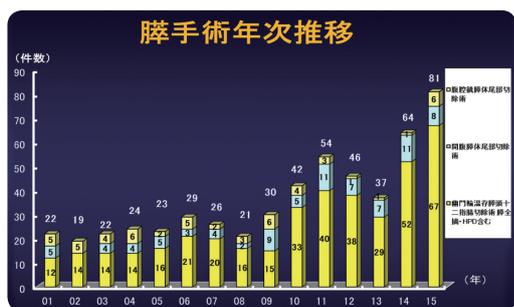
肝胆膵手術および単孔式腹腔鏡下手術から進行癌腹腔鏡下手術まで

副院長／（兼）外科代表部長（兼）外科・腹腔鏡外科センター長
細内 康男

がん治療は腹腔鏡下手術とともに当院の根幹を占める重要な柱です。群馬県がん診療連携推進病院として、治療管理委員会を組織し、がん登録事業の整備、がん化学療法のレジメン管理、緩和ケアの推進、がん連携など有用で安全ながん治療の一元管理を行っています。

胃癌、大腸癌、肝癌等のがん地域連携パスを稼働させ、地域の先生方と連携しながら計画的な術後経過観察体制を整えており、地域の先生方の御協力を頂きながらかん治療の中心的役割を担う施設として努力を続けています。

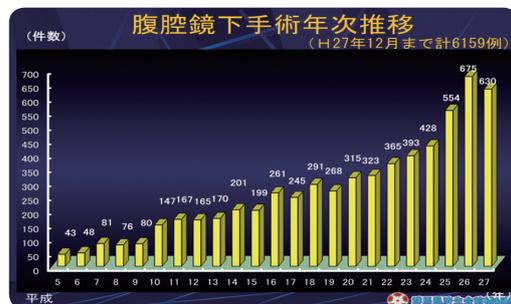
当科では、日本肝胆膵外科学会で**高難度肝胆膵手術**と指定される手術を数多くこなしており、2015年は85例に達しました。さらに、膵癌治療ガイドラインでは、高難度手術である（幽門輪温存）**膵頭十二指腸切除術**を年間20例以上行っている施設をハイ・ボリュームセンターとして、ハイ・ボリュームセンターでの手術を推奨しています。当院はハイ・ボリュームセンターとして本手術を2015年は67例に施行し、膵体尾部切除術を含めた膵手術施行数は81例でした（図1）。



(図1)

5年生存率が低いとされる通常型膵管癌例でもリンパ節郭清・術後化学療法の徹底により多くの5年生存を得るなど、実績を積み上げ、群馬県内全域から多くの患者さんが来院されています。2016年は4月30日までに膵頭十二指腸切除術が29例となり、僅か3ヶ月間で年間のハイ・ボリュームセンターの基準をクリアしています。

腹腔鏡下手術は2015年12月までの累積施行数は6159例に及び、全国トップクラスです（図2）。



(図2)

腹腔鏡下胆嚢摘出術は2014年および2015年は全国2位の施行数でした。

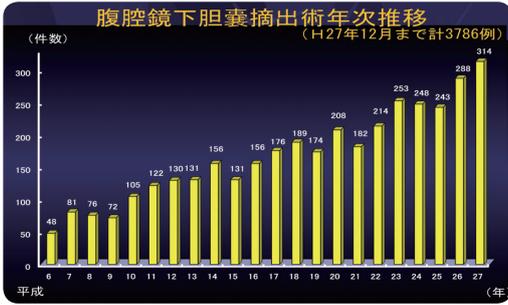
多数の手術を安全で速やかに行うためには、最新機器の充実が不可欠であり、当科では最新ハイビジョン腹腔鏡下手術セット（オリンパスエリート）が3セットを設置され、最新の超音波凝固切開装置をフル稼働し、常に安全な手術が行われており、これまでに腹腔鏡下手術での手術関連死はゼロである点も強調しておきます。

1997年から当院で開発した針型臓器把持器具ミニループトラクターを用いた2孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術を数多くに施行してきましたが、2009年からは術式をさらに工夫考案し、徹底的に整容性を追及した、傷跡が全く残らない単孔式腹腔鏡下手術を開始、胆嚢摘出術、虫垂切除術、大腸手術に開始しました。現在では殆どの胆嚢摘出術、虫垂切除術は単孔式術式で施行し、大腸癌でも多くの単孔から3孔式の port reducesurgery が行われています（図3）（図4）

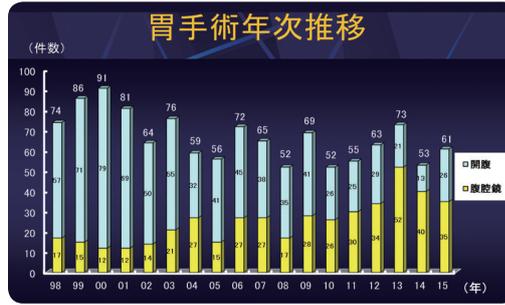
（図5）（図6）（図7）。

胃癌、結腸癌・直腸癌では、進行癌でも腹腔鏡下手術が施行され、最近では胃癌の75%、大腸癌手術の85%が腹腔鏡下手術となっています。また**ソケイヘルニア手術も全例で腹腔鏡下手術**が行われるなど2015年は1年間で630例の腹腔鏡下手術が施行されました（図8）（図9）（図10）。

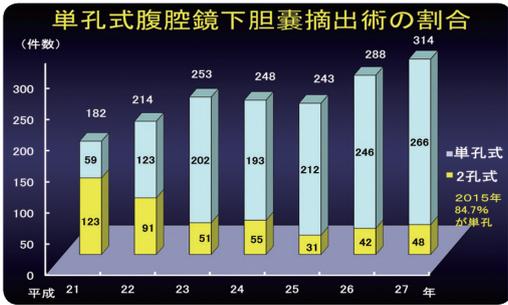
胃癌、直腸癌手術では技術的にも高度とされる腹腔内吻合法を全例で行うとともに臍部縦切開法などの工夫により、傷が少なく目立たないなど整容性に優れた、体に負担が少ない腹腔鏡下手術が行われています（図11）（図12）（図13）。



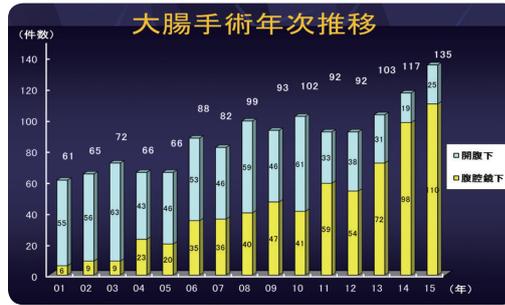
(図3)



(図8)



(図4)



(図9)



(図5)

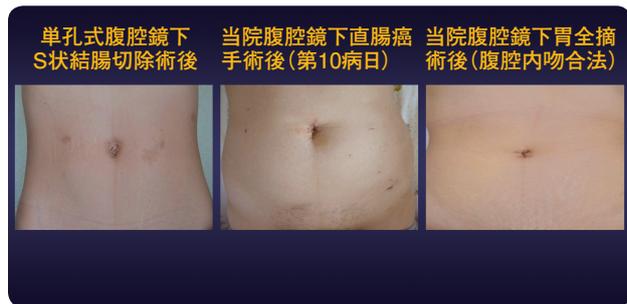
平成27年の手術割合 (全麻手術総数851件)

| | 総数 | うち腹腔鏡下手術数 |
|-----------|-----|-------------|
| 胆嚢摘出術 | 317 | 314 (99.1%) |
| 大腸癌 | 135 | 110 (81.5%) |
| 胃癌 | 69 | 41 (59.4%) |
| 虫垂摘出術 | 45 | 45 (100%) |
| 鼠径ヘルニア | 97 | 93 (95.9%) |
| PpPD, 臍全摘 | 67 | 0 (0%) |
| 臍体尾部切除術 | 14 | 6 (42.9%) |
| 他を含めた合計 | 851 | 630 (75.8%) |

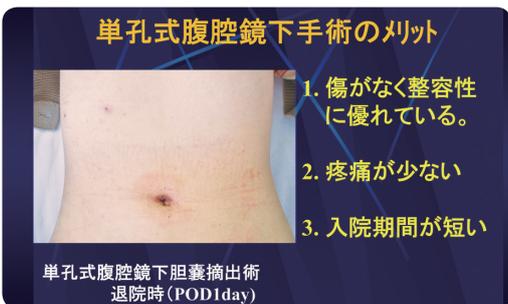
(図10)



(図6)



(図11-13)



(図7)

一方、進行癌に対してはリンパ節郭清の徹底的に行い開腹術と同等以上の成績を残しています。

胃癌、大腸癌は、まず消化器内科で内視鏡的治療(ESD、EMR)の適応を判断します。体に負担が少ない治療である内視鏡手術、腹腔鏡下手術の比率が高いことが当院がん治療の特徴です。

体の負担が少ない低侵襲治療が多く行われることで患者さんのメリットは大きいものと確信しています。

今後もスタッフ一同、患者さんのメリットを重視した医療を目指します。